

行けや、たんたん

宮城県

むがす、むがす。

ある旅人が、山道で迷ってしまいました。

「こいつはこまったなあ、日が暮れてしまう」と思って、心配しながら歩いていると、大きな滝のところに出了ました。その滝が、

「行けや、たんたん、行けや、たんたん」といつているように聞こえました。そこで、旅人は、そのままずっと進んでいきました。

しばらく行くと、また大きな滝のところに出了ました。滝は、

「もどれや、たんたん、もどれや、たんたん」といつているように聞こえました。旅人は、「はてなあ」と思いながら、引き返しました。

下の滝までもどつてくると、滝は、

「行けや、たんたん、行けや、たんたん」といつているように聞こえました。そこでやっぱり、先へ進んでいきました。すると、上の滝が、

「もどれや、たんたん、もどれや、たんたん」といつているように聞こえました。旅人は引き返しました。

下の滝までもどつてくると、滝は、

「行けや、たんたん、行けや、たんたん」といつているように聞こえました。そこでやっぱり、先へ進んでいきました。すると、上の滝が、

「もどれや、たんたん、もどれや、たんたん」といつているように聞こえました。旅人は引き返しました。

下の滝までもどつてくると、滝は、

「行けや、たんたん、行けや、たんたん」といつているように聞こえました。そこでやっぱり、先へ進んでいきました。すると、上の滝が、

「もどれや、たんたん、もどれや、たんたん」といつているように聞こえました。旅人は引き返しました。

村上郁再話

資料『夢買長者』佐々木徳夫／桜楓社